

# 報 雜

## 人 事

<p>東京帝國大學助教授從六位 根 岸 博 任岡山醫科大學教授 叙高等官五等</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學教授 根 岸 博</p> <p>本俸七級俸下賜 職務俸金千九百圓下賜 (四月二十四日)</p> <p style="text-align: center;">鐵道醫 岡 島 壽</p> <p>東京鐵道病院耳鼻咽喉科醫長ヲ命ス (四月二十五日)</p> <p style="text-align: center;">陸軍一等軍醫 佐 藤 一 衛</p> <p>依願豫備役被仰付 (四月二十七日)</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學助教授 田 川 輝 太 郎</p> <p>陞叙高等官六等 (五月一日)</p> <p style="text-align: center;">衛生技師 安 原 節 太 郎</p> <p>陞シテ高等官四等ヲ以テ待遇セラル (五月一日)</p> <p style="text-align: center;">岡山醫科大學教授 泉 伍 朗</p> <p>賜本俸三級俸 (五月二日)</p>	<p style="text-align: center;">(各 通)</p> <p>叙正八位 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 臺灣總督府在外研究員ヲ命ス 二年間獨, 瑞西, 米ノ三箇國ニ在留スベシ (四月十四日) 臺灣總督府臺北醫學專門學校教授 上京ヲ命ス (四月二十二日)</p> <p>岡山醫科大學教授 八木田 九一郎 賜本俸二級俸 岡山醫科大學助教授 武 田 縫 次 本俸十級俸下賜 (五月十三日) 岡山醫科大學助教授 上 代 皓 三 醫化學研究ノ爲獨逸國ニ在留ヲ命ス (五月十四日) 從五位 大 西 永 次 郎 叙勳六等授瑞寶章 (五月十四日)</p>
---	--

- 根岸 博君 別項の如く今般岡山醫科大學教授に任せられたる同君は本月十二日着任せられたり
- 生沼曹六君 既記の如く歐米各國へ出張を命せられたる同君は本月十八日當地出立西伯利亞經由先づ獨逸國へ向け出發せられたり
- 武野一雄君 豫て歐米各國に留學し居られし同君は本月二十三日無事歸朝せられたり
- 桑原良一君 は豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務し居られしが今般山口縣三田尻弘中病院に勤務せられたり
- 桑名省郎君 は豫て岡山醫科大學教室に於て研究中なりしが今般高松市古新町記念病院に勤務せられたり

○岡田眞一君 は豫て岡山醫科大學解剖學教室及び津田外科教室に於て研究中なりしが今般吳市恩賜財團濟生會病院外科部長として就任せられたり

○宮本種美君 は豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に勤務し居られしが今般高松市古新町記念病院に勤務せられたり

○佐藤 幹君 は豫て岡山醫科大學産科婦人科教室に勤務し居られしが今般和歌山縣高野町高野山病院に勤務せられたり

○横山丈夫君 は今般松江市簡易保險健康相談所を辭し吳市海軍共濟會病院に勤務せられたり

○河合部二君 は先般愛媛縣西條町武田醫院を辭し岡山醫科大學解剖學教室に於て研究に従事せられたり

○笹原竹三君 既記の如く朝鮮蕙山鎮慈惠醫院長を辭せられたる同君は今般栃木縣栃木町旭町三丁目に於て開業せられたり

川南求君逝く 君は明治二十八年第三高等學校醫學部を卒業し滋賀縣神崎郡八幡村に於て開業し居られしが去る三月病を以て遽逝せられたりと尙に哀悼に堪へず謹みて茲に用意を表す

◎學位授與 左記4君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが去る3月16日の同學教授會を通過し本月1日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

中 井 良 平 君

主 論 文

・溺死診斷補遺 (昭和5年8月岡山醫科大學歐文業府第2卷第1號=發表セリ)

參 考 論 文

1. 法醫學的血液個人鑑別ニ就テ (昭和5年6月犯罪學雜誌第3卷第3號=發表セリ)
2. 再び法醫學的血液個人鑑別ニ就テ (昭和5年10月本誌第42年第10號=發表セリ)
3. 骨所見ニ據ル法醫學的年齡推定 (昭和5年4月本誌第42年第4號=發表セリ)
4. 「パラフェニレン・デアミン」ヲ含有セル染毛劑使用ニ因ルニ、三尿成分ノ變化ニ就テ (昭和5年12月本誌第42年第12號=發表セリ)
5. 法醫學的黃燐檢出ニ際シテノ一經驗 (昭和5年11月本誌第42年第11號=發表セリ)
6. 黃燐低級酸化物ニ關スル知見補遺 (昭和6年4月本誌第43年第4號=發表セリ)

内 田 茂 雄 君

主 論 文

膿球ノ研究

- 其1 淋疾及び其ノ他ニ、三疾患ノ膿球ニ對スル「ドーバ」反應並ニ「インドフェノール」反應、  
附、膿中細胞ノ形態學的分類ニ就テ (本誌第41年第11號=發表セリ)
- 其2 膿球ノ「ドーバ」反應ニ就テ (本誌第42年第4號=發表セリ)

- 其3 膿球ノ「オキシダーゼ」反應ニ就テ (本誌第42年第6號ニ發表セリ)
- 其4 膿球ノ「ドーバ」反應並ニ「インドフェノール」反應ノ諸種要約ニ對スル性狀比較 (本誌第42年第7號ニ發表セリ)
- 其5 膿球ノ「ドーバ」並ニ「インドフェノール」反應(追報)特ニ後者ノ再出現ニ就テ (本誌第42年第9號ニ發表セリ)
- 其6 膿球ノ「ペルオキシターゼ」反應ニ就テ (本誌第43年第3號ニ發表セリ)
- 其7 膿球ノ「ドーバ」「インドフェノール」並ニ「ペルオキシダーゼ」反應ニ就テ (岡山醫科大學歐文業府第2卷第2號ニ發表セリ)

#### 參考論文

1. 「ドーバ」反應ニ就テ(第2報)(藤原晴共著)(本誌第42年第2號ニ發表セリ)
2. 速心性環狀紅斑ニ就テ(皮膚科泌尿器科雜誌第30卷第4號ニ發表セリ)
3. マイニツケ氏濁濁反應並ニブルツク氏反應ニ就テ(本誌第428號ニ發表セリ)
4. 岡山醫大統計ヨリ觀タル近縣癩患者分布狀態ニ就テ(皮膚科泌尿器科雜誌第26卷第1號ニ發表セリ)
5. 治淋劑「アチカル」治驗例ニ就テ(日本泌尿器病學會雜誌第15卷第1號ニ發表セリ)

坂 井 芳 次 郎 君

#### 主 論 文

脾剔出ガ赤血球沈降速度ニ及ボス影響ノ臨牀並ニ實驗的研究. 附. 不明層ノ本態ニ就テ (本誌第41年第11號ニ發表セリ)

#### 參考論文

1. 脾剔出ガ赤血球滲透性抵抗ニ及ボス影響ノ臨牀並ニ實驗的研究(本誌第41年第6號ニ發表セリ)
2. 慢性血小板減少性紫斑病ノ脾剔出ニヨル治驗例ニ就テ(本誌第42年第1號ニ發表セリ)
3. 膽囊穿孔ニヨル急性腹膜炎ニ就テ(本誌第42年第10號ニ發表セリ)
4. 血小板血液凝固ニ對スル數量的關係(本誌第43年第5號ニ發表セリ)
5. 月經ノ血液像就中血小板ニ及ボス影響ニ就テ(本誌第43年第4號ニ發表セリ)

大 森 三 彦 君

#### 主 論 文

上皮小體細胞内「リポイド」ノ實驗的研究殊ニ其意義ニ就テ(本誌第41年第7號ニ發表セリ)

#### 參考論文

1. 降臟ラ氏島ノ組織學的研究及ビ其分泌機轉ニ就テ(第1報)(本誌第42年第4號ニ發表セリ)

2. 膵臟ラ氏島ノ組織學的研究及ビ其分泌機轉ニ就テ(第2報) 過剩葡萄糖ガラ氏島ニ及ボス影響 (本誌第42年第4號ニ發表セリ)
3. 一側腎臟摘出後ノ家兎ニ於ケル殘腎細胞ノゴルヂー氏裝置ニ就テ (本誌第42年第11號ニ發表セリ)
4. 實驗的尿毒症ニヨル神經細胞ゴルヂー氏裝置ノ變化ニ就テ(本誌第43年第1號ニ發表セリ)

◎**入學宣誓式** 岡山醫科大學にては本月5日午前10時より大講堂に於て本年入學者の入學宣誓式を舉行せり。新入學者一同着席するや田中學長は教育勅語を捧讀し學生總代伊藤祿郎君宣誓文を朗讀し次に學長の訓辭ありて同11時退散せり

◎**第3回陸上競技大會** 岡山醫科大學主催の高等學校、專門學校等第3回陸上競技大會は本月17日午前8時30分より同學運動場に於て開催す、參加校は第六高等學校外18校にて關西大學專門部優勝せり

◎**第3回高等學校及專門學校庭球大會** 岡山醫科大學學友會主催の同大會は本月23、24の兩日同大學コートに於て開會す出場校は左記4校にして松山高等商業學校優勝したり

浪速高等學校 松山高等學校 松山高等商業學校 廣島高等師範學校

◎**納骨堂竣工** 岡山醫科大學にては同學に於て解剖せる者にして引取人なき遺骨を納むる爲め納骨堂を同學墓地の一隅に建設中なりしが今般竣工せるを以て本月16日午後2時より同所に於て納骨式を営み田中學長、解剖及び病理兩教室の各教授參拜せり

◎**神戸通信 昭和會** 昭和會にては新入會員宮島忠君の歡迎會に兼ねて懇親會を5月15日午後7時より神戸市醫師會館に開く、出席者は次の如く和氣露々裡に10時散會す

出席者(順序不定)

宮島 忠	石川 適	林 孝彦	勝呂 學
馬詰 征平	三上 達郎	安井 彌八	河合 忠義
齋藤 出羽	渡邊 傳二		(渡邊)